

京都府生協連ニュース

<第72回通常総会報告>

2025年8月5日・No.96(通算162号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蒔絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

京都府生協連第72回通常総会報告

～全議案を満場一致で可決～

6月19日(木)、京都経済センター7階会議室A・Bで開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをする
西島 秀向会長理事



京都府西脇隆俊知事代理
文化生活部 小林京子副部長



京都労働者福祉協議会
原 敏之会長

京都府生協連第72回通常総会報告

6月19日（木）午後1時30分から、京都経済センター7階会議室A・Bで、京都府生活協同組合連合会第72回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は45人で、本人出席23人、書面出席22人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、64人が参加しました。畑忠男副会長理事による開会宣言のあと、西島秀向会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府文化生活部・小林京子副部長（京都府西脇隆俊知事代理）、京都労働者福祉協議会・原敏之会長から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・事務局 今永絃子氏はじ

め、13人が参加しました。議長に吉岡充代子代議員（京都大学生協）が選任されました。地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などから76通の祝電・メッセージがよせられたことを松本樹事務局長が紹介しました。鯉江賢光専務理事が第1号～第5号議案を提案し、長誠一郎特定監事が監査報告をおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。総会後に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に西島秀向氏、副会長理事に高倉通孝氏、同・姫田歩氏、専務理事に鯉江賢光氏、特定監事に長誠一郎氏が就任しました。



開会宣言をする
畑忠男副会長理事



議案提案をする
鯉江賢光専務理事



監査報告をする
長誠一郎特定監事

■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々＜順不同・敬称略 6月19日現在＞

衆議院議員 章	勝目 康	参議院議員	井上さとし	京都市社会福祉協議会会長	高屋宏
衆議院議員 宏	泉ケンタ	参議院議員	倉林明子	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰
衆議院議員 夫	前原誠司	京都市長	松井孝治	京都府森林組合連合会代表理事会長	青合幹
衆議院議員	本田太郎	京都府議会議長	荒巻隆三	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之

■全議案が満場一致で可決されました

議 案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2024 度活動報告・決算関係書類等承認の件	44	0	0	44
第2号議案 2025 年度活動方針・活動計画および予算決定の件	44	0	0	44
第3号議案 定款の一部変更の件	44	0	0	44
第4号議案 2025 年度役員選任の件	44	0	0	44
第5号議案 2025 年度役員報酬決定の件	44	0	0	44

※出席代議員は合計 45 人（本人出席 23 書面出席 22）、うち議長 1 人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2025 年度役員体制】（6 月 19 日現在） * 新任

<会長理事>	西島秀向（員外）	清水泰治（京都医療生協専務理事）
<副会長理事>	高倉通孝（京都生協理事長）*	蛭田美幸（全京都勤労者共済生協専務理事）
	姫田 歩（京都大学生協専務理事）	筆口智子（生協コープ自然派京都理事長）
<専務理事>	鯉江賢光（員外）	柳澤克哉（京都橘学園生協専務理事）
<常任理事>	田村 敏（京都府庁生協専務理事）*	山路容子（生協生活クラブ京都エル・コープ理事長）*
	飯塚光一（立命館生協常務理事）*	吉岡克己（京都生協常務理事）*
	上西良太（乙訓医療生協専務理事）	吉田不二男（京都市民共済生協専務理事）
<理 事>	奥谷和隆（京都高齢者生協くらしコープ専務理事）	<特定監事> 長 誠一郎（乙訓医療生協監事）
	川村幸子（員外）	<監 事> 大川 洋（京都生協常勤監事）*
	姜 美名（京都生協副理事長）	崎濱 誠（龍谷大学生協専務理事）
	上坂光彦（やましろ健康医療生協専務理事）	

【退任された役員】

<理 事> 浦田 千恵さん、風折 昌樹さん、畑 忠男さん、本多 浩さん
 <監 事> 河野 直さん

【事務局】

事務局長 松本 樹 事務局担当 川端 浩子 事務局担当 岡本 朋子

会 員 生 協

京都生活協同組合
 生活協同組合コープ自然派京都
 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ
 京都大学生協同組合
 同志社生活協同組合
 立命館生活協同組合
 龍谷大学生協同組合
 京都府立医科大学府立大学生協同組合
 京都工芸繊維大学生協同組合
 京都教育大学生協同組合

京都橘学園生活協同組合
 京都経済短期大学生協同組合
 京都府庁生活協同組合
 京都医療生活協同組合
 やましろ健康医療生活協同組合
 乙訓医療生活協同組合
 全京都勤労者共済生活協同組合
 京都市民共済生活協同組合
 京都高齢者生活協同組合くらしコープ
 生活協同組合連合会大学生協事業連合

■ 5人の代議員・オブザーバーから発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 生活協同組合コープ自然派京都 大塚美季代議員(写真右)
高尾美香代議員(写真左)
「2024 年度組合員活動報告」



コープ自然派京都は「誰もが有機栽培農産物を食べられる社会へ」をビジョンに掲げています。2024 年度組合員活動では、無農薬の野菜を届けてくださる生産者の新田農園さんの畑のお手伝いをしたり、障がい者

雇用を推進されている生産者ピースクラブさんを訪問し福祉を学びました。そのほか外来種についてやさステナブルな暮らしについての学習会をしました。坂田昌子さん講演会では、「食と生物多様性のお話をおききし、農業や漁業を考えると多くは人間目線で考えることが多いのですが、小さな生物や、微生物にとっても豊かな場所であることが大切であること食の有機化を多様な生き物の視線にたって考えることが大切であ

ることを学びました。

ビジョン「暮らすこと」では、憲法、環境、原発、つながり、農業を大きなテーマとして活動しました。夏のハイザイ“ぐるり Party”ではごみは使い道がないものとしてすてられるものですが、アートの視点からみて親子で工作を楽しみながら、ごみは視点をかえれば資源となることを学びました。PFAS についても学習会をしました。ビジョン「食べること」では生産者の交流を意識してイベントを開催しました。「静かな汚染、ネオニコチノイド - 浸透性農薬は (いのち) に何をもたらすのか? -」上映会のほか、免疫を上げる料理マクロビオティックの講話を聴いて料理教室を実施、塩こうじだけの味付け、動物性食品に頼らない献立作りを学びました。

※PFAS (ピーファス): 人工的に作られた有機フッ素化合物の総称。4700 種類以上ある。水や油をはじき熱に強いという特性があり、焦げつきにくいフライパンや防水服、食品の包み紙などの身近な日用品から、航空機の火災などで使われる泡消火剤や半導体、自動車の部品にまで幅広く利用されている。産業利用に適している反面、一部の種類で自然界に放出されるとほとんど分解されないまま残り、生物に取り込まれると体内に蓄積しやすいことがわかってきた。

2. 立命館生活協同組合 飯塚光一オブザーバー
「立命館生協の活動報告」



5つのキーワードにもとづいて事業を行いました。「平和」を中心に組合員同士のつながりづくり交流の場、組合員の学びと成長を応援する場、組合員が健康安全に生活するための場、当然ですが大学との関係の魅力アップに貢献する場、平和環境 SDG s 等社会貢献につながる組合員活動を支援する場として活動しました。2024 年

度組合員の利用者数はのべ 471 万人、前年度より 18 万人増加、当期剰余金 5,684 万円となり、コロナで大変苦しい経営状況になり、地域の皆様含め生協連の皆様のご支援もありなんとかここまで回復できました。今後 2025 年 2026 年はびわこ・くさつキャンパスで大規模な施設改修を予定しており多額な投資をする予定です。

年間の供給高は 47 億 549 万円となり、社会情勢上、書籍事業や旅行サービス事業など厳しい環境ですが、物品、食堂、食の関係が大きく伸びており、事業を支えている構造となっております。

大学生協と地域生協の協働による未来像について、大学生協としてどのような未来像が描けるか、大きく 4 点あります。まず「教育と学びの深化と地域への貢献」ですが地域の課題解決や実践的な学びの場や交流、今後起きうる災害に対する防災、備えについてぜひ皆様と協働していきたいと思っております。2 つめに「地域社会の活性化と持続可能性の向上」。地域の活性化なくして発展はないので、役割を発揮していきます。3 つめ「学生生活の質の向上と卒業後の地域定着」。京都は学生の街ですが卒業後はでていってしまうというデータもありますので、京都に残ってもらおうという地域定着の促進にぜひ力をいれていきたいと思っております。4 つめ「京都ならではの未来像」。伝統文化の継承と革新、観光と地域との共生、京都ならではの食文化の継承と発展、伝統的な知恵を活かした防災、文化財の防災・減災についても連携しながら協働していきたい。最後になりましたが、大学生協と地域生協医療生協とともに、双方の強みを活かして互いに働きかけてさらなる発展に向けて協働していきたいので、今後ともよろしくお願いします。

3. 乙訓医療生活協同組合 佐藤卓利代議員 「会員生協の医療・福祉分野の交流について」



私は乙訓医療生協の理事長に就任して6年目になります。実施してきました会員間の交流会についてご報告させていただくとともに、総会参加者のみなさんにも会員生協による医療・介護の事業と活動の一端を知っていただければと思います。

2024年9月3日に開催された京都府生協連の理事長懇談会で、コープいしかわの大谷学理事長の講演で災害

が起きた後の活動をお聞きして、改めて日常的な生協の組合員の繋がりが大事だと感じました。そこで、会員生協の中で医療・介護の事業や活動をしている生協間で交流ができればと思い、京都府生協連と相談して、10月12日第1回会員生協交流会を開催、4月26日に第2回交流会を開催させていただきました。

第2回交流会には、京都生協、コープ自然派京都、生活クラブ京都エル・コープ、京都医療生協、京都高齢者

生協くらしコープ、乙訓医療生協と京都府生協連からも参加していただきました。最初に3月19日に行われた「京都市の保健福祉局長寿のまち・京都推進室」との懇談内容について京都生協福祉事業部金山修さん(当時)からご報告いただいた後、参加の各生協からそれぞれの活動状況を紹介していただきました。普段接することのない生協の活動をお聞かせいただき大変勉強になりました。たいへん和やかで楽しい意見交換ができたと思います。発言の中には「この会議が生協連の会議の中でいちばんリラックスできる」との声もありました。こういう形での交流は大切だと思いました。

第3回は秋に予定しており、4月に開設されたばかりの生活クラブ京都エル・コープさんのたすけあい活動スペース「りんく・る」にお邪魔して、施設での事業と活動を見学させていただいて、その後その場を会場としてお借りして会員生協の懇談をしたいと思います。

4. 京都市民共済生活協同組合 金森徳昭代議員 「京都市民共済生活協同組合の活動」



京都市民共済生協は、さまざまな商品を提供するのではなく共済商品のみを提供する生協となっております。前身の京都共済協同組合では、京都市内の中小企業の事業者や従業員対象に事業を行っていましたが、中小企業組合法の改正で従業員が組合員として認められなくなったので、組合員の資格を失った従業員や廃業になった中小企業の従業員の受け皿として

平成22年9月設立、翌23年4月事業を開始しました。当初京都市民対象でしたが京都府民を対象に活動域を広げて活動しております。主に火災共済をはじめ、コープ共済、各共済商品など他社保険を販売しております。昨年10月に京都府共済協同組合との合併に伴い、商品の入れ替え作業に現在取り組んでおります。組合員数は少子高齢化と組合員の高齢化で減少傾向にあり、昨年度は17,967名で、新規加入者はありましたが退会者が多く年度末には17,613名に減少してしまいました。毎年200名程度減少し4年で900名近くも減少しております。組合の経営においても組合員数の減少は喫緊の課題です。今後は若い世代を取り込めるよう広報戦略や魅力ある商品の開発をすすめていきます。ま

たインターネットでの販売が大変好調なので力を入れて取り組んでいきたい。住宅開発の年数を考慮してその地域を限定したポスティングも実施しています。組合員のくらしと安全を守ることが我々の大切な使命と考えております。火災共済に支払う費用も最小限度にすること、被災された組合員に最大限の保証をすることは当然ですが、組合員の家から火災を出さないことで支払いの減少をはかっていきます。京都市消防局によると昨年度の火災の発生件数は267件で47件の増加、うち住宅火災は138件で37件増加しております。私どもにも影響があり、組合員宅の火災の増加、支出も大きく増加してしまいました。そこで火災の減少のために組合員の防火教育の充実に力を入れました。毎年発行している共済通信に京都市消防局より記事の提供をいただき防火防災に関する情報を掲載、機関紙のプレゼントとして防火防災用品を提供し大変好評でした。消防団フェスタに出展した啓発活動では、消防局と連携して防火音楽コンサート開催したほか、消防局HPにバナー広告をだしたり、幼稚園児や小学生対象の消防図画ポスター事業にも協力し積極的に参加しており、京都市長から感謝状をいただきました。今後も組合員に信頼される組合づくりに励んでまいります。